



2025年3月
第759号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



教会改革の本丸

平塚教会牧師 北川一明

彼らの歩むべき道となすべき事を教えなさい

(出エジプト一八・20)

学校現場ではひと昔前からアクティブ・ラーニングという学習方法が急速に普及しています。学習定着率を「講義5%↓視聴覚20%↓グループ討論50%↓他者に教えること90%」とみなして、小学校から大学まで自由討論形式の授業がなされています。確かに講義を聴くよりも人に教えた方がずっと内容が身につきます。

キリスト教は「あなたは、今どんな困難の中にあるとしても、実は幸せです」と教えます。交わりという「グループ討論」で福音の50%を理解し、伝道して「人に教えること」で自分の幸せが90%実感できます。「神さまは目に見えません、救いも見えません、だから幸せが実感できません」と反論したくなるのは、信仰の交わりも伝道もしてない時です。

キリストによって幸せであり続け、死んだ後まで幸せであることがすなわち永遠の命です。永遠の命は永遠の教会の業に参与することで保たれます。ところが今、永遠に続くはずの教会が次々と閉鎖、解散に追い込まれています。私たちの永遠の命は危機に瀕しており、教会改革が必要です。

私たち教会が守り伝えるべきものは、ただ教会には永遠の命があるということです。教理・教義・仕来たりは、そのための道具です。教理は変わりません。教義は拘束力が強いだけに変更には慎重を要します。仕来たりは地域、時代、集団の性格によってすみやかに変えなければなりません。

一月のクリスマス委員会で献金袋に押印することで領収書に変えることが提案されました。協議の際に「昔、領収書の方式(教会の仕来たり)を変えてクレームになった」という懸念が示されました。

伝道が停滞していると「今までは〇〇だった」ということばかりに関心が向き、新しい形式に不安を感じるようになります。逆に伝道の成果が顕著なら、むしろ新来者に好適なように仕来たりを変えたいくなります。

目次

教会改革の本丸	牧師 北川一明 …1	ふたばカフェ 発足して一年	…4
市原美也姉を偲んで	二宮純子 …3	編集後祈	…4

「永遠に幸せであることをグループで討論し、外部に教えること」に集中する教会にしたいものです。

伝道が停滞し、新来者への配慮も低調になり、さらに伝道が停滞するという悪循環で教勢が落ちているのは全国的な傾向です。そんな中でも一部には会員の増えている教会があります。関心が外向きになっている教会です。牧師の説教がつまらなければ自分で勉強して新来会者に教えます。信徒同士で仲が悪ければ新来者を自派閥に引き込んでグループ討論します。こうして「永遠に幸せであることをグループで討論し、外部に教えること」が実現しているから、仮りに説教は退屈で人間関係は険悪であっても右肩上がりなのです。

福音のアクティブ・ラーニングが出来ていなければ、クチコミ中心の二〇世紀伝道モデルは崩れます。そこで平塚教会は私の着任前から「新時代に向けた大胆な対応（二〇一六）」を、着任時には「継承と改革（二〇一七）」を目指しました。その後教会の関心が外向きになるように「社会的公器（二〇一八、一九）」を目指し、具体的には一階多目的ホールを活用した教

育・文化センター活動を企画しました。役員会では「教育・文化センターなる名称はダサすぎる」とされ「アトリエ・フタバ」の名称になりました。それも新時代への意識の現れでしょう。「園児の信仰教育は保護者から」を合い言葉に園保護者を主要ターゲットとし、そこに会員がかかわることとされました。アトリエ・フタバは、実は平塚二葉幼稚園の補助活動です。

二〇世紀の教会財政モデルは、会員が収入の十分の一を捧げるべきことを理解し目指していることを前提としています。私の着任時、教会員の平均年収五百万円で計算すると平塚教会の予算規模は七千万円代のはずでしたが、現実には五十分の一献金状態でした。お金の話はしにくいから、身を削ることでかえってお金から自由になることがグループ討論されず、人に教えることもなされない教会は多いです。アトリエ・フタバ活動の原資を教会財政に求めることができませんでした。幼稚園の補助活動とされたのは「(仏教用語で恐縮ですが)方便」でもあったのです。

幼稚園では二〇二〇年度に向けて人員手当てまで計画していたのですが、コロナ禍

で低調なまま現在に至っています。

お金をかけなくても交わりも伝道もできます。どんな困難を抱えていてもキリストの故に幸せであることを自覚するには、交わりと伝道が必須です。盛んにして行きましょう。しかしどんなに伝道が進んでも、二十世紀の教会財政モデルでは近い将来財政は破綻します。人のライフスタイルが変わったからです。現在信徒が増えている教会であっても立ち行かなくなるのは同じでしょう。

そこで教会改革の本丸は会員資格改革になると私は思っています。世人はクラウド・ファンディングに出資することで自分の価値を確認しようとする時代です。現任陪餐会員の周辺にいる「準会員」のような人たちが広く浅く関与することで財務を健全化させます。

もっとも準会員という考え方は新しいものとも言えません。カトリックや東方教会は信仰を支える少数の会員と財政を支えるその他大勢から成っていたとみることもできるからです。新しいのは世の情報の流通形態で、海外にも準会員が大勢いるということにもなり得るWeb時代です。

市原美也姉を偲んで

二宮純子

昨年、久し振りにクリスマス祝会を再開するので、85歳以上の方に靴下を用意して欲しいと頼まりました。クリスマス祝会に80歳以上の方に靴下を用意したのはもう10年前の事です。

今から20年以上前にカステラを用意していたのが、80歳以上の方が多くなってきたので、靴下に替えようという話になり、それ以降市原美也さんと私が10年以上、30足近い靴下を袋詰めにし、カードを付けて、祝会のプレゼントに用意していました。

その作業の合間に色々とお話を聞かせて下さいました
美也さんは、言わずと知れた教会の刀自と言っても良い市原美保さんの妹さんでした。姉妹は大阪府池田市のクリスチャンの家庭に生まれ、伯父さんに当たる方は牧師だったそうです。お父さんは北大を出て、肥料会社を経営され、美也さんは神戸女学院を卒業されています。美保さんと美也さんは長身でお洒落で、美人姉妹で有名だったとのこと。

会社の経営が傾き、美也さんがお父さんの介護で大変になったので、美保さんの嫁ぎ先の大磯町の隣の平塚市に来て、平塚教会の会員になったという事でした。

美保さんが平塚教会で活躍できたのは、「家にいつ居るのだ」と言われたくらい、教会の奉仕に明け暮れていた美保さんに替わり、平塚から大磯に通い、美保さんの一家と、同居していた二人のお母様に当たる方と身体の弱い弟さんの世話と家事を引き受けていたからだ。当時の会員は皆承知していました。

美也さんは、従順な性格でしたが、関西の人らしく声は大きく、ユーモラスに溢れ、いつも元気でした。

後年、美保さんの介護までするようになり、私が「もういい加減、十分尽くされたのだから、止めたら」と言ったら、「ういや、今、止めたら今までやってきた事が無駄になる」と言ってやり通しました。

そのうち、ご主人の介護で教会にあまり見えられなくなり、私は年に二回程度、野菜やら果物をもって訪問しておりました。最後にお会いしたのは亡くなる前年の春先だったと思います。今時の若い人の様な毛系の帽子をかぶり、柄のスリッパをはき、

「もうこんでも良いよ」と若々しかった美也さんでした。

私は、翌年、実母と義母を亡くし、忙しくしている折、美也さんの訃報に接しました。

「まさか」、私は、美也さんは亡くならない人だと思っていたのだと、その時悟りました。いつも人の為に働いていた美也さん、いつゆっくりする時間があつたのだろうと、忸怩たる想いです。

貝原さんも、天に召され、平塚教会も随分寂しくなりました。しかし、人は変わっても主の御言葉によっていつまでも堅く立つ教会であるよう祈っています。

草は枯れ、花はしぼむ

しかし、主の御言葉は永遠に立つ

イザヤ書40章8節

なぜか想い出される聖句です。



ふたばカフェ 発足して一年

今年度、9月22日に「グリーンフケア入門講座（講師：佐藤章子先生）」を開催し、平塚教会のグリーンフケア「ふたばカフェ」が、阿閉牧子姉をコーディネーターに開かれました。

今年度の会合は三回でしたが、11月24日に出席された方より、感想メールが送られてきましたので紹介します（なお、個人的なことは削っております）。

Aさん

「参加させていただき大変幸せでした。皆様と話していると、自分だけでは気づかない新たな発見もあり、気持ちが高らかになるようです。ありがとうございます。またお会いできる日を楽しみにしております。」

Bさん

「いろいろお話しさせていただきました。ありがとうございます。辛い思いをされ日がい方は、時がかかるとは思いますが、ご自愛されますようにお祈りいたします。」

Cさん

「皆、お顔が違うように同じ例は二つはあ

りませんね。今日はよい日でした。感謝」
Dさん

「ありがとうございます。また参加させていただきます。」

なお、平塚教会版グリーンフケアを開催するにあたって、基本的な考えや実施方法等の資料を他団体より取り寄せて検討しました。

特に先行実施している日本改革派神戸神港教会からは、富田光子役員が教会を訪問し、お話を聞くとともに貴重な資料をたくさんいただきました。

平塚教会「ふたばカフェ」開始後、当教会の資料（入門講座記録・パンフレット等）を神戸神港教会へ送付しましたところ、ご丁寧にご返信をいただきましたので掲載します。

「先日は、グリーンフケアの始まったことをお知らせいただきありがとうございます。早速「みなとカフェ」の皆様にご覧させていただきました。○長老にもお渡ししました。辛い思いのある人が、傷のある人こそイエス様の愛による傾聴が必要で、教会がそのような場所にと扉を開くことは、本当に大切なことです。平塚教会・

神港（神戸神港教会）での会が、神様のお導きの中で豊かな祝福が注がれますようにお祈りしています。

…後略…（12月18日）」

次年度も「ふたばカフェ」は開催されます。開催日は、週報などで皆様へ通知されますので、参加を希望される方は阿閉牧子姉までにご連絡ください。

諸連絡

◎世界祈祷日集会

会場：日本基督教団平塚教会

3月7日（金） 10…00

テーマ：クック諸島からのメッセージ

◎平塚教会総会

4月27日（日） 礼拝後

〔編集後祈〕

教会も年度末を迎えました。決算と予算の時期ですが、財政収入と主日礼拝出席者数の減少は厳しく、対策に一考を要する今日です。神様、何か良い知恵をお授けくださいと祈る日々です。

（編集子）